

渡辺豪「境面」

2007年9月15日(土) - 10月20日(土)

アラタニウラノ
ARATANIURANO〒104-0041
東京都中央区新富2-2-5
新富二丁目ビル3A
3A 2-2-5 Shintomi Chuo-ku
Tokyo 104-0041 Japan
Tel +81-(0)3-3555-0696
Fax +81-(0)3-3555-0697
info@arataniurano.com
www.arataniurano.com

盛夏の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

ARATANIURANOでは、9月15日から10月20日まで、渡辺豪「境面」展を開催致します。

「very very human」展（2005年豊田市美術館）及びメディアシティ・ソウル（2006年ソウル美術館）で紹介されるや注目を集め、本年は、「美麗新世界：当代日本視覚文化」（北京／広州）、「Have You Eaten Yet ? - 2007 Asian Art Biennial」（国立台湾美術館）などのグループ展に立て続けに参加するなど、目覚ましい活躍を見せる若手作家・渡辺豪の、東京では初となる個展に是非ともご期待下さい。

渡辺豪（1975年兵庫県生まれ）は、これまで、頁数以外何も書かれていない真っ白い書物、女性モデルの顔面に白い化粧を施し、白い髪を被せた真っ白いポートレート作品などを発表してきました。

近年では、そこから更に発展し、写真と3DCG、バックライトを用いた新たなシリーズ「フェイス（"ポートレート"）」を制作しています。コンピュータ上で作成した3D形体の顔に、実在する人の表面（皮膚）の画像を貼付け、半透過フィルムにプリントしたライトボックス作品は、観る者に強い存在感と同時にそれとはまったく正反対とも思える不可解さ、不在さをも投げかけてきます。その大きな瞳で眼差しを投げかける少女は、一切の個性を剥奪されながらも、強く真っ白な光を放ち、ある種の神々しさのようなものをたたえています。

それは、誰とも判断できないという匿名性とどまらず、ヒトともモノとも言えない、指し示すことの出来ない領域を感じさせ、視る者と視られる対象どちらにも属さず、又どちらにも存在を与えるような、自律性を持った境の面を浮かび上がらせているかのようです。言うなればまさに「境面」そこに、渡辺の興味はあります（展覧会タイトルである「境面」とは、作家による、境（border）と面（face）の造語です）。

人類は、自己、世界、人、生命などのあらゆる「境」について考え、画定し、争い、また「境」で彷徨ってきたとも言えます。それは、クローン技術を筆頭に、テクノロジーの発展にともない、ますます複雑で深刻な様相を呈しています。渡辺の作品から誘発される「境面」は強い磁場となり、我々をもう一度「境」に立たせ、思考を差し迫るような強いインパクトを与えることでしょう。

つきましては、本展の広報にご協力賜りたく、ここにご案内申し上げます。



1